

平成十六年度

# 施政方針

平成十六年三月一日

河内長野市長  
橋上義孝

平成十六年度の当初予算案の説明に先立ち、今後の市政運営につきまして、私の所信の一端を申し上げます。

我が国の景気もようやく薄日がさしはじめ、長く暗いトンネルから抜け出そうとしているところですが、未だ力強さに欠け、まだまだ先行きが不透明な状態にあります。内外の情勢も、自衛隊のイラク派遣や北朝鮮問題、年金改革など、「激動」といった一言では済まされないほどに、複雑で混沌とした局面が訪れております。各界のリーダーはもちろんのこと、国民が一つ一つに冷静な判断を下し、我が国・我が大阪の未来に希望の光が射し込むことを期待するものです。

地方自治を巡る状況におきましては、地方自治のあり方の根本をも揺るがしかねない、極めて重大な事態を迎えております。税源移譲を中心とした国庫補助負担金・地方交付税の三位一体の改革は、構造改革の重要な課題の一つでもあり、平成十六年度政府予算案においてようやく具体化をみせたことについては、一定、前進したと言えます。

しかしながら、今後これら三位一体の改革が地方の実状を踏まえることなく、単に国の財政事情のしわ寄せや政治的な道具とされるならば、各自治体の地方分権の推進や行財政改革の努力に水を差すばかりか、市民サービスにも重大な影響を及ぼすことは必至であります。

地方自治体がその自治能力を如何なく発揮し、どのような状況が訪れようと揺らぐことのない、確固たる行財政体制を築いていくことが今こそ求められております。

平成十六年度は、私の第二期市政の最終年、集大成の年であります。二期八年の成果が問われるなか、これまで以上に自らを厳しく律し、奮い立たせながら市政運営に臨むものであります。

平成十六年度の当初予算編成にあたりましては、安心・安全対策、少子高齢社会への対応、教育環境の整備などの視点に特に配慮し、市議会各会派からのご要望や市民ニーズをふまえて、施策構築を行ったところでございます。

予算総額は、一般会計で 四〇一億三、〇〇〇万円

特別会計で 三八八億五、九五五万五、〇〇〇円

合計しますと、七八九億八、九五五万五、〇〇〇円

であります。

これは、平成十五年度当初予算に比べまして、一般会計で八・八%の増加、特別会計で十四・六%の増加、総額で十一・五%の増加となります。

当初予算案の要点については、提案理由の中でご説明申し上げますが、特に主要な施策につきまして、第三次総合計画の六つのまちづくり目標にそって、その概要を申し上げます。

**一点目は「時代を拓く・新たな時代潮流への対応」であります。**  
まず、電子市役所の実現に向けて、ユニバーサルデザインにも対応した市公式ホームページのリニューアルなど、第二次ＩＴ化推進アクションプランに基づく取り組みを進めてまいります。

また、ボランティアとの協働促進に関する指針の策定をはじめ、文化振興計画の策定や男女共同参画条例の制定など、時代の要請や市民ニーズの多様化に対応した施策を推進してまいります。

**二点目は「街を創る・都市基盤整備の推進」であります。**

三日市町駅前西地区市街地再開発事業につきましては、再開発ビルの着工を踏まえ、早期の完成・オープンに向けて事業を進めてまいります。

また、河内長野駅周辺を中心市街地の活性化に向けて、「にぎわい河内長野二一」との協働をさらに進めるとともに、駅前広場のエレベーター設置をはじめとした、交通バリアフリー化にも取り組んでまいります。

さらに、河合寺竜泉寺線をはじめとした市道の整備や広域幹線道路網の整備促進、上下水道の整備など、都市基盤の整備に努めてまいります。

**三点目は「環境を守る・生活環境の整備」であります。**

昨年十月から実施しました、プラスチック製容器包装の定期収集をさらに充実するとともに、引き続き環境関連施策を推進してまいります。

また、市営斎場の改築に向けた取り組みの推進や千代田石坂・原地区の住居表示の実施をはじめ、大阪府からの違法簡易広告物撤去の権限委譲を受けた取り組みなど、よりよい生活環境づくりに努めてまいります。

さらに、貴望ヶ丘病院住宅線の歩道整備をはじめとした交通安全

対策を図るとともに、消防防災拠点施設の建設推進、防災情報の提供、地域防犯活動の推進助成制度の創設など、安心・安全のまちづくりを進めてまいります。

**四点目は、「共に生きる・豊かな市民生活の創造」であります。**

清見台コミュニティセンター・地域福祉センター「くすのかホル」がまもなく、そして日野コミュニティセンターが四月に、いよいよオープンいたします。地元による管理運営が円滑に行われ、地域住民のみなさんに愛され、育まれる施設をめざしてまいります。

また、待機児童の解消と保育ニーズに対応するための保育所の統合整備を進めるとともに、母子保健計画の改訂も併せて、次世代育成支援対策行動計画の策定を進めてまいります。

さらに、児童虐待防止や母子家庭等自立促進計画の策定、まちかどデイハウスへの支援、障害者の小規模授産施設への支援などの取り組みを進めるとともに、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉などが連携した地域福祉計画の策定を進めてまいります。

**五点目は「活力を産む・産業・経済の活性化」であります。**

市内産業の活性化を図るため、商店街の空き店舗活用を促進をはじめ、プレミアム付き商品券の発行などの地域商業活性化事業や地域産業振興事業を支援してまいります。

また、市民への安全な農産物の供給、地産・地消の推進に向けて、ほ場整備など農業基盤の整備に努めるとともに、有害鳥獣対策を充実してまいります。

さらに、河内長野への観光客の増加と地域の活性化を図るため、観光ボランティアなどとの協働による、市民・事業者・行政一体となった観光振興事業に取り組んでまいります。

一方、国・府と連携した緊急地域雇用創出事業や就職困難層への地域就労支援など、引き続き雇用対策を進めてまいります。

**六点目は「人を育む・生涯学習の振興」であります。**

キックスにつきましては、図書館の利用者が昨年十一月に早くも百万人を突破するなど、生涯学習の拠点施設として定着しております。今後、生涯学習の推進体制の確立を踏まえ、更なる事業展開を進めてまいります。

また、中学校単位での相談員の配置や地域と連携した家庭教育の

支援体制づくりなど、児童・生徒の心の悩みや家庭での不安に対し、きめ細やかな対応に努めてまいります。

さらに、千代田小学校の校舎増築や運動場の拡張、給食センターの改修、学校施設の大規模改造・耐震診断、放課後児童会施設の整備、そして低学年児童への防犯ブザーの配付など、教育環境の整備や安心・安全対策を推進してまいります。

以上、六つのまちづくり目標にそつて、主要施策の概要を申し上げますが、私が市長に就任しました平成八年は、この第三次総合計画がスタートした年でもありました。以来、「環境とふれあい共生するまちづくり」「自立性の高いまちづくり」を基本理念に掲げ、「人・まち・緑 夢くうかん 歴史と文化の生活創造都市」を将来像として、まさに第三次総合計画とともに歩み、がむしゃらに市政に取り組んでまいりました。その結果、キックスやコミュニティセンター、市営三日市西住宅の建設などが実現できるとともに、埋立規制条例や水道水源保護条例、環境基本条例の制定、モックルコミュニティバスの運行など「人間中心の思いやりとぬくもりのあるまちづくり」を押し進めてまいりました。これもひとえに、市民のみなさんのご理解とご協力はもとより、市議会議員のみなさんのご支援の賜物であると考えております。

今、第二期市政の総仕上げを迎える中で、就任当時から大きな時代の転換を感じております。長引く景気の低迷、地価の下落による税収の減少、厳しい財政状況、都心回帰による人口の減少など、第三次総合計画スタート時には想定しえなかつた右肩下がり局面が訪れているわけでございます。

これらの事態を乗り切り、自立した都市経営を目指すべく、第二次行政改革大綱・実施計画、そして財政健全化プログラム（案）を策定いたしました。

とりわけ財政健全化につきましては、日々の事務事業の隅々に至るまで対象とし、また、私の公約であつた事業すらをも対象とするなど、非常に厳しい内容としております。しかしながら、これは単になりふり構わぬ健全化を押し進め、市民のみなさんや職員に負担を押しつけようというものではなく、あくまでも財政構造を建て直し、市民との協働、役割分担を見直した上で、未来のまちづくりのための財源確保、すなわち第四次総合計画を実現ならしめるための

ものであるということを変更して認識いただきたいと考えております。この第四次総合計画は、大きな転換期にある中で、計画期間の十年間のみならず、二十年、三十年先の河内長野の将来を左右する、極めて重要な意味合いを持つものであります。昨年は、市民アンケートの実施やまちづくり市民会議の設置などを行ってまいりました。平成十六年度は、いよいよ総合計画審議会の開催など、策定作業が本格化してまいります。市民が求めているものは何なのか、河内長野の未来には何が必要なのか、職員の英知を結集し、市民・議会との共同作業の中で、答えを見つけださなければなりません。

本年四月には市制施行五十周年を迎えます。約三万人でスタートした河内長野市も、今や十二万都市にまで発展してまいりました。この発展の陰には、二度にわたる財政再建団体への転落を乗り切り、「一人前」の街に育ててくれた、先人たちの多大なご努力があったことを深く心に刻んでおります。

記念事業として、式典の開催をはじめ、記念誌の発行やまちづくりフォーラム、文化財の特別公開・シンポジウム、公開番組の招致、五十キロウォーキングなどを予定しているところです。こうして、五十周年を多くの市民とお祝いできますことは、ふるさと河内長野に思いを馳せることはもちろんのこと、過去を振り返る中で、成功も失敗もその教訓を活かして、次の五十年に向けた未来のまちづくりを考える絶好の機会、過去と未来の架け橋となると言えるのではないでしようか。

最後になりましたが、平成十六年度は、行財政改革の実行や総合計画の策定など、市議会さらには市民の皆さんとの議論も非常に活発になってまいります。平成十五年度決算からスタートする行政評価の結果公表も併せて、我々行政の説明責任というものがこれまでに以上に問われてくるわけでございます。そのことにより、個々の職員の資質向上、そして市民との強固な信頼関係が構築され、必ずや未来への力強い礎になるものと確信しております。

今後とも、議員並びに市民の皆さまには、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。